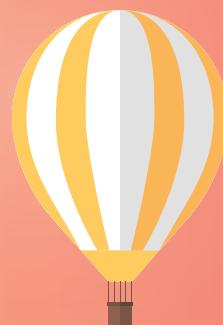


第50期 中間事業レポート

2018年4月1日 — 2018年9月30日



新日本空調株式会社

証券コード 1952





代表取締役社長 夏井 博史

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第50期第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響や貿易摩擦懸念等の不透明な海外経済情勢の中で、堅調な雇用・所得情勢を背景に、景気は緩やかな回復基調にあると思われます。他方、消費者物価の基調は横ばいとなっており、デフレからの脱却や経済の好循環のさらなる実現に向けて、課題が残されている状況にあります。

当建設業界においては、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックや都市再開発を背景に不動産関連の設備投資の伸びにより拡大傾向が続いておりますが、一方で、深刻な技能労働者・技術者の不足は業界の構造的課題であります。また、長時間労働等、働き方改革に伴う取り組みや、AIやIoTを活用した技術革新への対応、生産性向上への取り組みが不可欠な状況であります。

こうした環境の中で、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、完成工事高492億1千9百万円（前年同四半期比10.5%増）、営業利益3億6千3百万円（前年同四半期比25.8%減）、経常利益5億6千9百万円（前年同四半期比19.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億9千3百万円（前年同四半期比8.0%増）となりました。また、受注工事高

につきましては、687億7千1百万円（前年同四半期比28.2%増）となりました。

なお、中間配当につきましては、前年同期より5円増額し1株につき15円とさせていただきます。

2018年度は、中期経営計画『SNK Value Innovation 2020』の2年目となります。その基本方針は「地球環境の保全と持続可能な地球社会の実現に貢献する環境ソリューションカンパニーとして、顧客や社会の要請に応え、2020年代への持続的成長と新たな企業価値の創造を目指す」ことであり、さらなる企業体質の進化を図るため、次の3つの経営課題を掲げ推進しています。

1. 顧客ロイヤルティの向上に向けた成長戦略の展開と推進
2. 安全・品質確保と生産性向上に向けた設計施工技術と情報技術の融合
3. 透明性の高い経営基盤の構築と社会ニーズに沿った経営資源活用の健全化

また、2018年度より当社グループは、企業が中長期的に持続的成長を目指す上で重視すべき3つの側面、環境（E）、社会（S）、企業統治（G）を視野に入れたESG経営を実行していきます。事業特性を踏まえた上で、ESG経営の観点から、あらゆる事業活動において課題を特定し、中長期的な取り組み目標を定め、SDGs*に代表される国際的社会課題の解決に資する事業活動を推進します。

そこで、企業価値向上を目的として活動していた従来の委員会を改編し「CSR・ESG戦略委員会」として本年10月1日より活動を開始しました。

*SDGs：持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）。2015年9月の国連で採択された2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球規模の課題として世界的な行動を要請している。



この委員会は、SDGsに代表される社会課題や中長期的な目標への取り組みを事業プロセスにブレイクダウンし、グループ内の啓発活動やESG経営を推進していきます。また、株主の皆さまをはじめとしたステークホルダーの方々に対する情報開示や建設的な対話等を通して、当社グループの取り組み姿勢を社内外に発信する役割を担っていきます。

そしてこの活動は、当社グループが従来から取り組んでいる現場における安全品質の確保や働き方改革、事業の根幹である省エネルギー対応やAI、IoTといった技術革新へのチャレンジ等、経営課題の推進に共通していくものでもあり、実行部門として新たに設置した「ESG経営戦略室」とグループ関係者が協働し活動を推進していきます。

株主の皆さまには、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



トピックス

当社「工学センター」がBELSの最高ランク「★★★★★(星5つ)」を獲得

当社原子力事業部が拠点を構える「工学センター」（神奈川県横浜市）がBELS（ベルス）^{※1}の最高ランク「★★★★★(星5つ)」を獲得しました。BELSとは、建築物の省エネルギー性能を評価・表示する第三者認証制度であり、設計図等に記載されている設備の仕様で省エネルギー性能が評価されます。

工学センターは、「省エネ・創エネ」と「快適な室内環境」を両立する「ZEB^{※2}化要素技術」を取り入れた改修工事を2014年に行っており、開発した技術の効果を実際の建物で検証する拠点「実証Labo」としてのショールーム機能をあわせもっています。

当社は「ZEBプランナー^{※3}」にも登録をしており、環境ソリューションカンパニーとしてこれらの実績をお客さまの省エネルギー化、ZEBの実現・推進のニーズに活用するとともに、今後も「地球環境負荷低減」と「快適な室内環境」を兼ね備えた空調技術の開発を進めていきます。



工学センター



※1 BELS：建築物省エネルギー性能表示制度 (Building-Housing Energy-efficiency Labeling System)

※2 ZEB：[年間での一次エネルギー消費量が正味（ネット）でゼロまたは概ねゼロとなる建築物]を定義したもの

※3 ZEBプランナー：一般に向けて広くZEB実現に向けた相談窓口を有し、設備設計・施工等の業務支援を行い、その活動を公表するものに対し、一般社団法人環境共創イニシアチブにより登録・公表されるもの

熱源最適制御システム「Energy Quest®」(エナジー・クエスト)を 田町スマートエネルギーセンター第二プラントへ導入

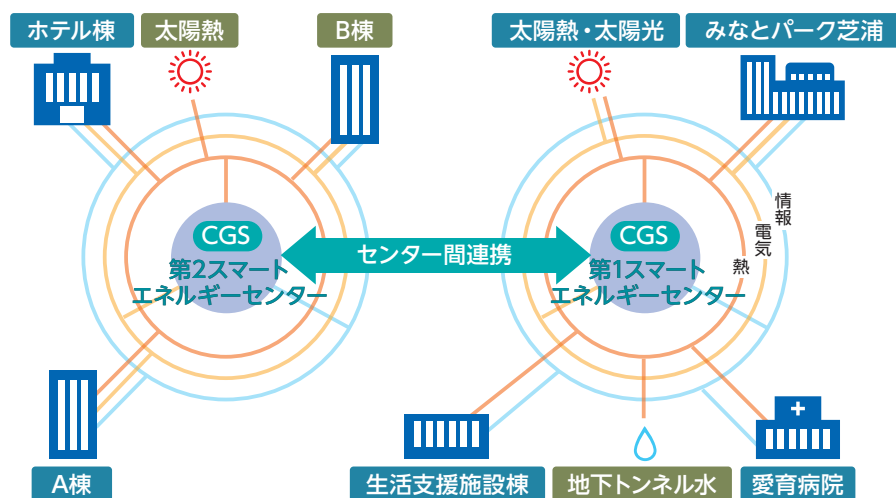
～日本初のプロジェクトへ～

当社が施工に携わった東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)が運営する「田町スマートエネルギーセンター第二プラント」(東京都港区)が竣工し、2018年4月よりmsb Tamachi (ムスブ田町) への熱と電気の供給が開始されました。

msb Tamachiは、港区が策定した田町駅東口北地区街づくりビジョンに沿って開発された第Ⅱ街区で、第二プラントを中心にオフィス、商業施設、ホテル等への熱と電気の供給網を結び、エネルギーに関する情報をネットワークでつなぐことにより、熱や電気といったエネルギーを効率的に生み出しかつ供給する「スマートエネルギーネットワーク」が構築されています。

そのネットワークの核となる制御の部分において、当社が開発した熱源最適制御システム「Energy Quest®」が導入されており、プラントの熱エネルギーの供給情報や気象状況といった膨大な情報を瞬時に収集・分析し、人には難しいリアルタイムな熱負荷を予測して、熱源機器の最適運転計画を策定し自動運転による制御を行っています。

また、この隣接する第Ⅰ街区には「田町スマートエネルギーセンター第一プラント」(2014年竣工)があり、既に当社のEnergy Quest®が導入され稼働しています。今後は、第一プラントと第二プラント、2つのスマートエネルギーネットワークが連携され、田町駅東口北地区全域のエネルギー需給の最適化・エリア全体の省CO₂化が実施される計画です。この“複数の街区間でスマートエネルギーネットワークを連携させること”は日本で初めての取り組みであり、両街区のプラントに導入されたEnergy Quest®の連携により、当社はこの日本初のプロジェクトの一翼を担っていきます。



スマートエネルギーネットワーク概念図

「Energy Quest®」の概要

「Energy Quest®」は、熱源機器が最も効率の良い運転となるように制御するシステムです。

一般的な熱源制御はあらかじめ決められた順に熱源機器を運転し一定の制御を行います。当制御システムは熱源機器の運転順位・運転台数・出力配分を、熱源システム全体の効率が最も良くなるようにコントロールします。

これは、熱負荷や外気条件などが季節や時刻ごとに多様に変化の中で、膨大な数の運転の組み合わせパターンから、熱源システムの運用が最高効率となる1パターンを、その時の条件に合わせて決定し、安定運転を考慮した制御を行うことで実現します。

また、最適の対象を選択することができ、“省エネモード”のほかに、電力消費量を削減することができる“省電力モード”なども搭載しています。このモード切り替えによって、省エネだけでなく、CGS廃熱、再生可能エネルギーや未利用エネルギーを積極的に活用した効率的なエネルギー供給や節電要求に対応することが可能です。



ユミコアジャパン神戸工場 兵庫県



ダイナックス苫小牧工場 北海道



セイコーエプソン広丘事業所9号館 長野県

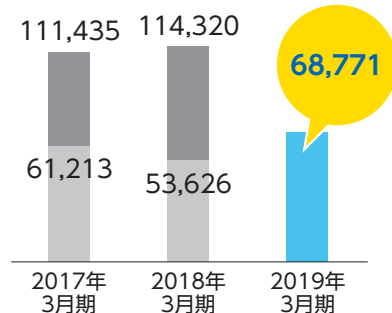


日本橋高島屋
三井ビルディング
東京都

連結財務ハイライト

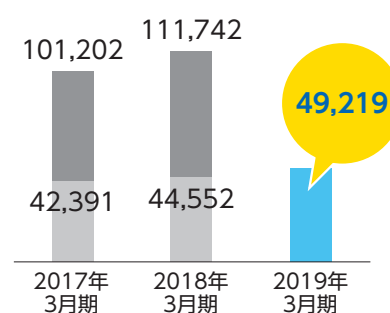
■ 受注工事高

■ 通期 ■ 第2四半期(累計)



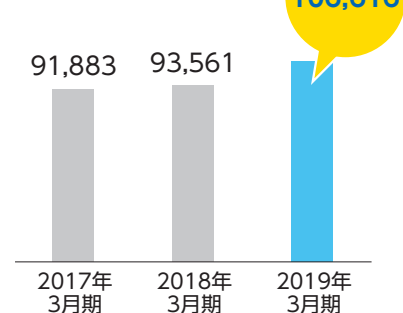
■ 完成工事高

■ 通期 ■ 第2四半期(累計)



■ 繰越工事高

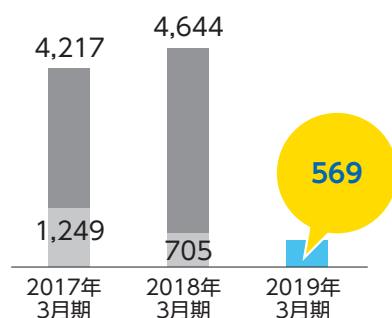
■ 第2四半期



(単位: 百万円)

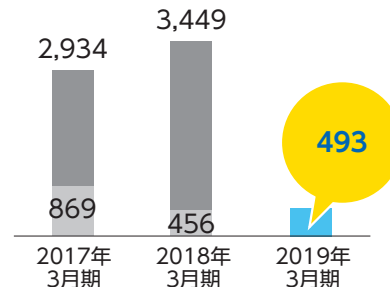
■ 経常利益

■ 通期 ■ 第2四半期(累計)



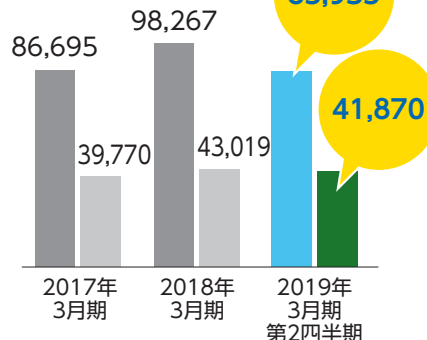
■ 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

■ 通期 ■ 第2四半期(累計)



■ 総資産・純資産

■ 総資産 ■ 純資産



■ 当社の概要

商 号	新日本空調株式会社 Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
設立年月日	昭和44年10月1日
本社所在地	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
資 本 金	51億5,860万円
従 業 員 数	1,576名(連結)、1,089名(単体)

■ 株式の状況

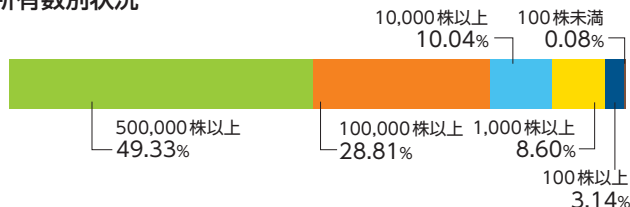
発行可能株式総数	84,252,100株
発行済株式の総数	25,282,225株
株主数	5,340名

■ 大株主

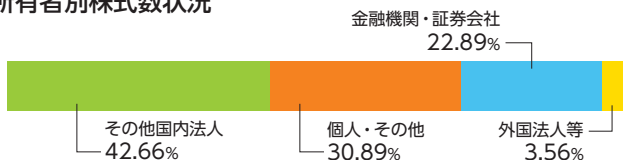
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
新日本空調協和会	2,118	8.38
三井物産株式会社	1,266	5.00
株式会社東芝	1,255	4.96
株式会社三井住友銀行	1,006	3.98
三井住友信託銀行株式会社	1,000	3.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	956	3.78
新日本空調従業員持株会	939	3.71
日本電設工業株式会社	760	3.00
株式会社東京エネシス	571	2.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	538	2.12

■ 株式分布状況

所有数別状況



所有者別株式数状況



個人・その他	4,974名	外国法人等	65名
その他国内法人	240名	金融機関・証券会社	61名

■ 役員

代表取締役社長	夏 井 博 史	社 外 取 締 役 (非 常 勤)	森 信 茂 樹
常 務 取 締 役 常務執行役員	洲 野 聡 志	社 外 取 締 役 (非 常 勤)	水 野 靖 史
常 務 取 締 役 常務執行役員	赤 松 敬 一	監 査 役	楠 田 守 雄
常 務 取 締 役 常務執行役員	大 宮 祥 光	社 外 監 査 役	野 水 秀 一
取 締 役 上 席 執 行 役 員	下 元 智 史	社 外 監 査 役 (非 常 勤)	鶴 野 隆 一
取 締 役 上 席 執 行 役 員	遠 藤 清 志	社 外 監 査 役 (非 常 勤)	城之尾 辰美
取 締 役 上 席 執 行 役 員	山 田 勇 夫		

■ 株主メモ

事 業 年 度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月開催

基 準 日 定時株主総会 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日

株主名簿管理人および
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合せ先 ☎ 0120-782-031

1単元の株式数 100株

公 告 方 法 電子公告の方法により、当社ホームページの下記
 アドレスに掲載して行います。
<https://www.snk.co.jp/>
 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

各種手続き 氏名・住所変更、単元未満株式の買取等、株式に関する各種お手続きは、ご利用の証券会社へお問合せください。
 なお、未払配当金のお支払いおよび特別口座に関するお問合せについては、三井住友信託銀行にて承っております。

未払配当金および特別口座に関するお問合せ先
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 ☎ 0120-782-031 (受付時間: 平日 9:00～17:00)
 URL: <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

株主優待のご案内

対象となる株主さま

- ① 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さま
- ② 毎年9月30日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さまのうち、2年以上継続して保有している株主さま

優待品・贈呈時期

- ① 2,000円相当のカatalogギフト 毎年6月下旬予定
- ② キッズスマイルQUOカード1,000円分 毎年12月上旬予定